

## アメリカ合衆国の教育



大リーグ MVP を大谷選手にとってほしい（10月13日現在）。大谷選手の情報は毎日入り、国内の報道では、日本人初の MVP を獲得できると誰もが思うだろう。確かに、アメリカでも「20世紀前半以来の二刀流怪物」や「今後の野球界を変える名選手」と報道され、有力視されている選手でもある。一方、反対意見もないわけでもない。「チームの勝率は低く」・「プレイオフ進出はない」など、シーズン中盤から議論され、チームの成績に対するプレッシャーがない大谷選手は他の選手と比べて個人成績に集中できるという意見もある。このように日米双方の見解を知ると大リーグの理解が深まり、面白い！

教育関連のニュースも同じだ。国内だけの情報だとアメリカ教育に関する情報は偏っている。どっちが良い悪いではなく、どっちも同じような課題を抱えていることを日本人に理解してほしい、すると面白みが増し、日本が抱えている教育問題を解決するアイデアが現れるかもしれない。両国の子どもが学ぶ内容や方法、人材育成像などにさほど違いはない。確かに、日本と比較するとアメリカの面積と人口はケタ違い。そのため、一つ一つの課題がより大きく感じられる。国内の教育事情を深堀すると（例 貧困から生まれる教育格差）同じような課題は必ず見つかる。アメリカの場合、ステークホルダーが多いため、課題の解決策もより多く、より早い！偏ったままでの見方をしてしまうと面白くもないし、マイナス面や異なる面ばかりが目立つ。今回は、アメリカの教育制度をより深く知るために描いたつもりである。各パネルから得た知識をもって、今後、報道されるアメリカの教育に関するニュースなどの情報を観てほしい。

教育関連のニュースも同じだ。国内だけの情報だとアメリカ教育に関する情報は偏っている。どっちが良い悪いではなく、どっちも同じような課題を抱えていることを日本人に理解してほしい、すると面白みが増し、日本が抱えている教育問題を解決するアイデアが現れるかもしれない。両国の子どもが学ぶ内容や方法、人材育成像などにさほど違いはない。確かに、日本と比較するとアメリカの面積と人口はケタ違い。そのため、一つ一つの課題がより大きく感じられる。国内の教育事情を深堀すると（例 貧困から生まれる教育格差）同じような課題は必ず見つかる。アメリカの場合、ステークホルダーが多いため、課題の解決策もより多く、より早い！偏ったままでの見方をしてしまうと面白くもないし、マイナス面や異なる面ばかりが目立つ。今回は、アメリカの教育制度をより深く知るために描いたつもりである。各パネルから得た知識をもって、今後、報道されるアメリカの教育に関するニュースなどの情報を観てほしい。

日本とアメリカの教育を語る際、入口としてまず教育課程が任されている母体を知る必要がある。アメリカはそれぞれの州、日本は国に任せている。従って、各州を細かく調べると様々な制度があり、好きな地域から調べると面白い（日本もそうだが…）。まず、下図に示されているアメリカの大まかな教育制度である。幼稚園は5歳、小学校は6歳からなど日本と非常に似ている。これ以外に、基本的なことを以下で述べる。ご覧になってからその各州の詳細を調べることをおススメしたい。

